

補足資料1 「自ら学ぶ子供の育成」に向けた授業イメージ

これは、「南会津のよさを生かした 自ら学ぶ子供の育成」リーフレット(令和5年1月:南会津教育事務所)の内容を具現化していく授業イメージを表したものです。リーフレットと関連させ、校内研修や自己研修の際にご活用ください。

例) 小学校4年 算数科「わり算」



【本時の目標】 具体物の数とあまりのあるわり算の筆算の構造を結び付ける活動を通して、筆算の仕方を理解することができる。

I つかむ (課題を把握し、見通しをもつ)

問題の提示: 227個のキャラメルを3人で分けると、一人何個になりますか?



① 自力解決する (思い思いの方法で問題を解く)

習ったばかりの筆算を使ってみよう!

実際に227個の○印と3つの皿を書いて、皿に1個ずつ分けて入れていこう。

教師の関わり ポイント①②③

この教師は、子供の「分かったつもりだが説明できずにいる」という子供のつまずきを事前に想定しています。そして、分からない所はどこなのか焦点化した問いを引き出しています。

② 考えた方法を話し合う中で「問い」を見出す

筆算でやると、まず、22を3で割って7あまり1。あまりの1を下ろして17を3で割ると5あまり2。だから答えは75個で2個あまります。

問い

どうして先に、22を3で割るのか分からないな?

問い

あれ?筆算はできるけど、説明ができないな…。



II 深める (追究し、解決する)

③ 見出し、共有した「問い」を基に考える



今日は、どうして先に22を3で割るのか、実際にキャラメル(10個×22箱、バラ7個)を使ってグループで考えてみましょう。

22という数は、箱の数のことだよ!

実際に箱の数を数えてみようよ。



ということは、22を先に割るということは、まず、10個入りの箱を先に分けることと同じ意味なんだね!

教師の関わり ポイント④

この教師は子供同士が一緒に悩み、解決に向け、互いに足りないことを補いながら協働して学び合う力を高めることを目的として、ペアやグループの学習を意図的に位置付けています。

教師の関わり ポイント④

この教師は、子供の学習状況を見取り、考えたいことが焦点化されたタイミングを見計らってヒント(今回はキャラメル)を与え、子供同士で考えられるよう、与え過ぎないように提示しています。

Ⅲ まとめる・振り返る

④ 学習内容の定着を図る



今日の学習で分かったことは何ですか？隣の人と伝え合ってみましょう。伝え終わったら、ノートにまとめを書いてみましょう。

227を10の箱とバラの数に分けると、22箱と7個になるでしょ。だから、最初に22を3で割らないと計算できないことが分かったよ。

10のまとまりとバラに分けて考えることが大切だね。



教師の関わり ポイント⑦

この教師は、分かったことが何かをペアでアウトプットさせ、互いに補完し合えるようにしてから、ノートにまとめを書くようにし、学習内容の定着を図っています。

⑤ 学びを意味付ける



今日は、筆算の仕方を見つけ出すことができましたね。今日の学習でどんな学びをしたから見つけ出すことができたのですか？

キャラメルを数えたから、計算の意味が分かったよ。実際に数えたり、ノートに図や表を描いたりして考えることって大切だね。

〇〇さんが分からないと言ってくれたから、考えることができたよ。私も分からないことは分からないと言うようにしましょう。



⑥ 学び方のよさを価値付ける



今日は、〇〇さんの分からないという言葉があったからみんなで考えることができたね。〇〇さん、ありがとう。みんなで補い合って、分かりやすい説明ができるようになったね。

教師の関わり ポイント⑧

この教師は、学び方のよさを価値付けるようにし、この学級だからこそできた学びであると実感させています。また、全ての教育活動で以下の4点を意識して指導・支援し、親和的な学級集団づくりにつなげています。

- ① 自己存在感を感受できるようにする
- ② 共感的な人間関係を育成する
- ③ 自己決定の場を提供する
- ④ 安全・安心な風土を醸成する

この授業では、筆算の仕方を考えていく中で、量や操作の意味を理解していく子供の思考の流れと教師の関わりが見えてきませんか？

特に、学びを深めていく段階では、他者との対話を通して、互いの考えを結び付け、解決していく学習活動を重視していること、自分達で考え方を導き出せるよう、教師の関わりは最低限であることが大切であることを示しました。

本資料で示した内容は、あくまでも授業イメージの一例です。全ての授業に当てはまる内容ではありませんが、このような学び方をしていくことが、「自ら学ぶ子供の育成」につながっていくのです。

